



## 研修会報告：「周産期メンタルヘルス研修会2018」

9月23日、北里大学白金キャンパスにて研修会を開催いたしました。117名という多数の方にご参加いただき、まことにありがとうございました。早期に定員となつてしまい、お申込みをお断りした方、企画Ⅰのみ受講とさせていただいた方も多数おられ、ご希望に沿うことができず大変申し訳ございませんでした。

参加者の皆様にはアンケートを実施し、104名から回答をいただきました。今後の研修会企画の参考にさせていただきます。感想の一部を以下に抜粋してご紹介します。



### 企画Ⅰ（午前の講義）

・周産期メンタルヘルスに関するガイド、ガイドライン、マニュアルのとらえ方が疑問だったので、講義を聞いてスッキリしました。  
・ガイドライン、コンセンサスガイド、マニュアル、言葉の定義を知ることはとても大切だと思った。顔のみえる関係作り、本当に大切ですね。

←午前は講義中心。皆さん熱心に聴講されていました。

↓午後はロールプレイやグループワークで盛り上がりました。



### 企画Ⅱ（午後の講義・実習）

・ロールプレイをすることで日頃の疑問・不安の軽減ができました。  
・グループワークで自分とは違う立場のお2人からたくさん刺激をもらいました。  
・様々な地域の方がいたので、ぜひそれぞれの地域で行っているチーム連携の工夫などの話も聞く時間があるとうれしかったです。

### 企画Ⅰ、企画Ⅱを通して

・基本から応用まで盛りだくさんの内容になっていたかと思えます。その分、周産期メンタルヘルスについて初めて学ぶという方々にとっては、消化するのに時間がかかるほど、濃い内容だったかな、とも思いました。  
・具体的な内容で、すぐに臨床に使えるようなもので、とても良かったと思えます。また、私個人としましては、地域で勉強会を開く際に、助産師さんたちが何に困っているのか、何を学びたいと感じておられるのかを知る機会となりました。

午前の講師の先生方です。

左から渡邊先生、竹内先生、佐藤先生。



今回の企画もお楽しみに！  
また皆様とともに学ぶことができることを楽しみにしております！！

### <研修会に参加して>

研修会に評議員として参加させていただきました。午前は「周産期メンタルヘルスの基礎知識から診断・治療の実際」ということで、講師の先生方から周産期メンタルヘルスに関する基本的な内容や実際に行われている現状についての詳しく、わかりやすい講義がありました。集中してまとめを整理して学ぶことができるため、受講生にとって有意義な時間だったと思います。半日で全てを学ぶことはできないので、今後、3～5回で一通り学べるようプログラムを作ったらいいのではないかと思います。

午後は「周産期メンタルヘルスのケア・支援～多職種に焦点をあてて～」で、臨床心理士・助産師の相川先生からカウンセリングの基本について、リエゾン精神看護専門看護師の宮田先生から現場でもっとも苦慮する自殺念慮のある母親への対応について、助産師の新井先生から多職種連携やチーム医療の基本的なことについて、とても丁寧な講義がありました。3人一組のグループによるロールプレイが行われ、私も参加させていただきましたが、自分で対応したり、他人の対応を客観的にみたりして、お互いに感じたことを意見交換するのは、とても充実感や新鮮な気づきがあり、非常に盛り上がりました。1日は長いように最初思われましたが、あっという間の1日で、参加者の満足度も非常に高かったようです。医師の参加者が少なかったため、もう少し異業種が関われるよう各職種の参加者が増えることを期待します。

（評議員/宗田聡/広尾レディース院長）

### （投稿記事募集！）

会員の皆様にとって有用な情報をニュースレターで取り上げていきます。  
詳しくは学会Webサイト（<http://pmh.jp/index.html>、QRコード（→））  
または、学会事務局（[mental-3@hac.mie-u.ac.jp](mailto:mental-3@hac.mie-u.ac.jp)）まで。  
\*企画・発行：日本周産期メンタルヘルス学会 事務局・情報関連委員会

